

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

新型コロナウイルスの影響が、私達の暮らす地域以外での実態を肌で感じたくて福井・石川地域に出かける。移動の規制・集まりの

規制を少しずつ緩め、社会経済活動とコロナとの共存を図っている情報を事前に把握していたので、明るい兆しと出会えるのかと楽しみにしていた。

しかし新型コロナウイルスの影響の厳しさを随所で体験する。北陸高速道は、随所でリニア工事が行われ、1車線規制であったが渋滞はほとんど無かった。確かに車道の痛みが激しく、走行音は車内のラジオ放送を遮るほどで、工事の必要性を理解してしまふ。今年開催予定だった東京オリンピック対応のため、首都圏に

工事が集中し、それ以外の地域の工事ができなかった事も要因の一つだろう。多くのサービエリア・パーキングエリアに立ち寄るが、施設に近い駐車スペースにスムーズに駐車できた。観光を目的

ず全席空席の状況。スタートに毎日の状況を尋ねると「今日は平日なので」との返事だった。

今回は、時間的な余裕もあり東尋坊観光遊覧船絶景クルーズを予約なしで訪れる。乗船

ているが初めて海上からの見学。海からの東尋坊の眺望は格別なものだった。大型バス6台に分乗した学生の一

場は、まだ開いていないかと思ったほどだ。施設内は驚くほど、店舗が減り、目的の魚も「土日しかない」との返事。店舗を替えての購入で領収書を受け取ると同じ商店名。新型コロナウイルスの影響の厳しさと、産業基盤を破滅させる事態に遭遇しているのだと痛切に実感した。

コロナ禍の影響は、これまでの産業形態を大きく変貌させるのだろうか

とした大型観光バスやマイクロボスも無く、施設内やトイレなども人影はまばらだ。昼食で利用したサービエリア、混雑の中での食事を選びようとしてレストランを選択すると、昼食時間帯にもかかわら

に便利な無料駐車場に難なく駐車し、発券場に行くのを待たずに券が購入できる。定員80名型に乗船するが定刻に乗船した人員は6名。潮風の感じる席での東尋坊見学だった。東尋坊はこれまで2回訪れ

な買い物風景には出会わなかった。お土産を目的に、福井・敦賀の日本海側最大級の「日本海さかな街」。何度か訪れた活気ある海鮮市場だ。10時に訪れると駐車場には数台の普通車両。市



船内の寂しさは、観光の楽しみ方を見直す時期かもしれない

(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)